

体動困難で緊急入院となった後に、パーキンソン病と診断された患者の検討

## 1. 研究の対象

2020年1月から2023年8月までに体動困難で当科に緊急入院となった患者。

## 2. 研究目的・方法

パーキンソン病患者は世界中で増加しており、パーキンソン病パンデミックと言われている。本邦でも高齢者の増加に伴い、パーキンソン病患者はますます増加していくことが予想される。パーキンソン病の診断は必ずしも容易ではなく、適切に診断されていない患者が存在する。すなわち、なんらかの理由で緊急入院となった後に、パーキンソン病と診断される患者が存在する可能性がある。そこで今回、体動困難で緊急入院となった後に、パーキンソン病と診断された患者について検討する。それ以外の体動困難で緊急入院となった患者についても比較のため一部解析を行う。

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、Hoehn & Yahrの重症度、パーキンソン病の経過年数、主訴、入院時の診断、現病歴、既往歴、合併症、診察所見、検査所見、入院後の経過、入院期間、転帰について診療録を用いて後方視的に検討を行う。

## 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた情報や、試料に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。

照会先および研究への利用をご同意頂けない場合の連絡先：以下に記載

研究責任者：済生会横浜市南部病院 脳神経内科 中江啓晴

住所：〒234-0054 横浜市港南区港南台 3-2-10

電話番号：045-832-1111